



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately seven horizontal lines across the left page of the manuscript.



一のつりてはつるまの
 花のよのひのふりかへりて
 又てのよのひのふりかへりて
 一のつりてはつるまの
 名をよのひのふりかへりて

花のよのひのふりかへりて



老のよのひのふりかへりて
 花のよのひのふりかへりて
 又てのよのひのふりかへりて
 一のつりてはつるまの
 名をよのひのふりかへりて

桂阿 龜文 園在 友宗 園龍 牛瓦

嬰^うの例^{れい}く^くの^のあ^あら^らさ^さ

喜^き尔^に

は^はの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

何^{なに}れ^れ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

五^ご河^か

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

山^{さん}の^のあ^あら^らさ^さ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

悪^{あく}の^のあ^あら^らさ^さ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

志^しの^のあ^あら^らさ^さ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

五^ごの^のあ^あら^らさ^さ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

柳^{りゅう}枝^し

神^{かみ}の^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

志^し里^り

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

安^{やす}可^か

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

古^こ友^{ゆう}

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

五^ごの^のあ^あら^らさ^さ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

純^{じゆん}の^のあ^あら^らさ^さ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

植^ちの^のあ^あら^らさ^さ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

志^しの^のあ^あら^らさ^さ

あ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さの^のあ^あら^らさ^さ

圓^{えん}の^のあ^あら^らさ^さ

弱き身をこくはめくふりや
ふ義

君の御時こそ久しき人
園長

筆をたゆみ下より筆もく
嬉市

かきこひかひと誰の如
喜望

そとあふりおれり者か言はれ
氣文

能く病ふやをも眠くもさ
正明

おひさし碓氷一日のあ
子吉

あふりつゝく杉の秋風
海老

花枝や〜ま〜の権のま〜あま
年瓦

細くま〜り〜な〜あ〜ん〜む
春尔

お宿を陶一うを〜あ〜あ〜
友葉

流れ下のみぬ〜れ石
礎馬

又〜た〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ
武徳

河の海よ〜る〜る〜る〜る〜
悲海

七中のおろきをこゝとぬえ

すゝやうの老をひきよゝるを

新陽

かろしき程をせやう衣

村長

古用草に一丁存茂る老木かな

元子

杉ゆゑ一葉毎に中の杉一本

横山

不意も此年より我々更らぬ

龍掌

○
もたぬ〜あつた〜

圖龍

墨もた〜ゆ〜

龍風

よ〜も〜

松歌

〜海〜

園長

お〜

梅阿

先若き〜

衣葉

よ〜

舟瓦

岩〜

何紅

園〜

龍寛

青〜

菴尔

先〜

与音

け〜

智耐

阿〜

費多

人曰一書の事と云ふは其の徳也

幸い能く人かきしは其母也

武後

幸い人に見ゆす色何れも

子古

幸い物老人の之種を照し

夏はけもせはけの福縁也

午我

いさしむきよねさしのつら

雀女

松さみ家十なりや夏本立

鴉鳥

松の本を同じくしなり下涼 山雨

ありしとありきせぬをよかぬ 安可

心づきのあつしき杜母也 梅境

其花もやねもさちみせかえ 玄鬼

みゆかにふけのさしなり志の枝 本葉

下さるやなぞせはれ木の法 文里

つらもあらぬをありこそし 柿市

百もたれ難くふしきみなり 石路

年々... 女
汝也

昔... 乙明

玄... 柳子

菊... 玄聖

う... 玄之

七... 寛我

十... 呂英

こ... 龍連

年... 一我

年... 吾伯

光... 流化

光... 溪詠

七... 後行

ま... 娯介

此... 風籠

方人女一人なりとて古婦の壽を祝ふ
乃ひ門を志すの事なかりし事やらむ
とゆふしよもさるに因みはせぬ
たよ欲きのそくはる指をを珠た
を吹し七旬を瑞しき喜入も
牙に紅のしきよも喜入のゆき
何れや高傳しなき歌なもち四方
し圓我しき喜く待中をさ論
しよへしとて人笑はれとあそを呈
するもあはれはよきしげりも烟

よはひ観観しきありあうん感ふ
喜んむもよもはるも

きから絶ぬをりかよ今耳あり可因
こまりし壽大ニ喜持留にあはれ
をむらぬ喜つを二粒みりよ
あはれもつ百は流りよあはれ
事したりし事し

夏栴子売せぬ門とるよあはれ
結美

元く麻大ふすちんはねを雅風
 年子富急精者ああか
 尊新大ああもくくもあな
 旅つるや確くはあな年深
 老あもくくあああや七の森
 中ら老あはあまもくくあ
 あああああああああああ
 はああああああああああ
 北山

夏やうやう試あ七あああ
 ちうせ何ん中あああああ
 昔二万八子あああああ
 高あああああああああ
 世を都あああああああ
 高あああああああああ
 ともああああああああ
 幾又老人ああああああ

南部 平角
 大坂 齋園

あつちのつねもぬ

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

浴

重厚

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

藤太

○

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

尾

古衣

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

眉元

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

呼童

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

泰里

○

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

九舞

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

桂舎

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

露瀨

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

花封

あつちのつねもぬ 七言八句 九句

なほしり誰もかく社ありあけし

暇よき老をさむれ讀ふ所

難口

曲直なるのぬし古稀の壽ぬる信

碧針よとまたからまぬよも

あるを旅し

植るりた糸もろしき志の女

其後

涼しやぬほあかぬ汁の面

其履

同齡なる世も古稀の女

戸廻る

競強せむ七十の女わらぬ

秋風

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


なほ樂しき結女その自白 老中象 百童

一と心くは美代にありこそ一升 鼓雜

竹のまはり又園園や花もり 時来

多き朝の土籠めく朝牡丹かな 鬼嘲

七とちのちを狂ひあつ又あ

ぬかししはるまきよちよち

あつちよちよちのこころい

はくちや井のまのま代狂も 能巨

風をわらふまきねる糸のまきや 自口

よ海月代とたつ難き扇かな かきえ

きりぎりす先せぬ都くくはり 能巨

いつねあつちよ色海 吟哦

みねのなほあや 子方

むし 本中

年毎に 万徳 費時

色 虫袖

七十を惟あらしや風車 川端 羊牛

かろの保しゝるる付木の葉に

丁部をひし

幸ひや都くち舞あけ子祝 おあせ 祝之

又まみいしむまぬいしむま お 里急

あわしむまあまのま 入き 方壺

あわしむまあまのま 三田 善耕

あわしむまあまのま 柳原 花枝

あわしむまあまのま 兄付 一馬

あわしむまあまのま 友氣

あわしむまあまのま 左丁

あわしむまあまのま 久良

あわしむまあまのま 英和

あわしむまあまのま 柳枝

あわしむまあまのま 孤山

あわしむまあまのま 吾妻

識録や七重にきく川井 沙明

木のまきうきを掃く歌かな 音三

昔はみちのちのちやあきのあや 木子

七返を舞うる舞の戦わ那 徒丸

七重にみちのちのちやあきのあや ^{えき} 松南

急の枝まき ^{えき} 鬼川

ちよるまに枝み枝み枝みわ那 和起

着 ^代 里概

くまのまき ^か 二子代

宿のまき ^か 知休

けや ^か 概

奥のまき ^か 月哉

木のまき ^か 江

ま ^か 竹浪

海と作く ^か 志方

ま ^か 智度

老ゆもちんちんぬいぢのあまがね
 いつものもあぬきあぬき清ああ
 あぢう中ぬき牡丹のむつが
 古株れさけに棉風牡丹かな
 今もこの光のちかや箱乃磨
 岩あけををねりしき華かな
 咲くは實も難のよとらる
 求南
 枕里
 葉史
 玉卮
 凌花
 渭橋
 心遂

すみ所なる響せりう西一鴨
 麻島
 柏喜

まも〜〜〜

水戸橋井

あ〜〜〜あまをねねら玉つまき
 十はちのむね響やみ所の春
 笑とむのむねまやまりのむ
 阿まらるる讀笑まむ櫛の花
 百も種まらる中もまはあの中
 ちぢのひ天よ讀くや松の急
 か菜
 寸松
 一羽
 鳥曉
 ち中
 漂あ

祝言ぬねあきり亭一雀乃亭 石云 以法

むね一ゆみのせしよはなはなはなはなはな 新柯

えいしりま母り園乃そくの念 雪才

そよよのせしよはなはなはなはなはな 松井 松茂

七様の鐘いそはなはなはなはなはな 大塚 氏子

松一もやいそはなはなはなはなはな 石田 柳枝

あも満く清ぬ梅の老木あけ 中野 血水

つやも老木あけはなはなはなはな 兼崎 吟花

あもぬきりみわはなはなはなはな 兼崎 兼文

あもぬきりみわはなはなはなはな 水府 列妓

あもぬきりみわはなはなはなはな 南柯

あもぬきりみわはなはなはなはな 龍屋

あもぬきりみわはなはなはなはな 仙葉

夏木之皆友わかし山をさるた田山東

此宮や舟の子れよく後ろましく 燕支

はるる高やまう合まをの板 大鯨

東宮を地よこの苗を一かまへ 馬文

此直度七十賀、かなの詩 坡長

行り不充乃多ありあれたれ 坡長

園は杖はく歌経ぬやうら

みそ氣の屋の山にたくへん

幾世かをねむねまちとせを

かちゆの古掃とわう一さく

正心 鶴真人

歌のみをえささるちかしく

少もり稀なる人とれたもあは

再ひたしはるのさあ入を

よの公書はりやうあらしよ

一 柳牛

夏草や 柳の吹ふ老門 田中 帯川

柳 石神 たるや 春の空を 芦外

いかに かくれ 十中よ

さか 花のうら 花のうら

あはれ 春のうら 秋のうら

十中よ 十中よ 十中よ

絵 花のうら 十中よ

又 花のうら 十中よ

歌 花のうら 十中よ 免文

秋草

十中よ 花のうら 十中よ

花 花のうら 十中よ

を 花のうら 十中よ

秋 花のうら 十中よ

新編の古今和歌集の序文
附録の古今和歌集の序文
志願の古今和歌集の序文
同志の古今和歌集の序文

